

COVID-19 感染症に関連する緊急調査報告  
～言語聴覚療法対象者と言語聴覚士・スタッフを守るために～

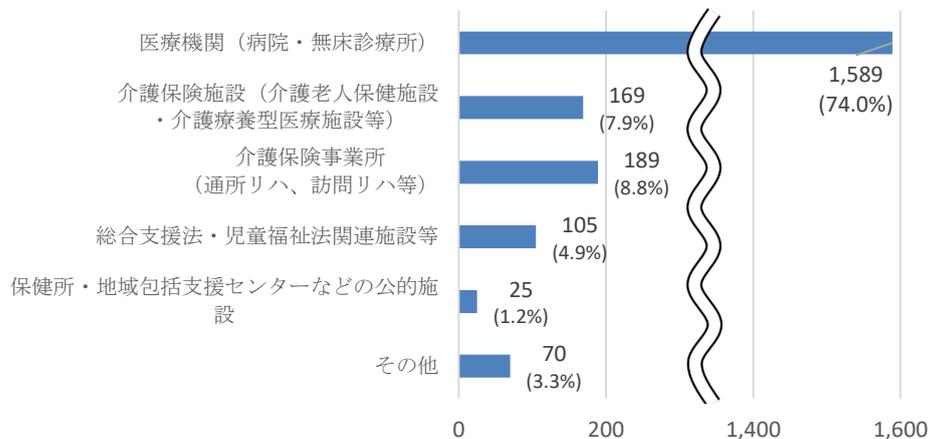
安全対策部 松尾康弘

言語聴覚士の職務状況およびCOVID-19 感染症対策に関する組織運営の現状の把握を目的として、5月に協会会員を対象として実施した「COVID-19 感染症に関連する緊急調査」の結果を報告いたします。本調査結果を参考に、COVID-19感染対策を含め、言語聴覚療法をとりまく安全対策等の検討を進めてまいります。また会員各位におかれましても、本調査結果を参考に、ご自身とご自身の職場を振り返ることで第2波・第3波に備える準備につなげていただきたいと思います。職場や地域による特性もあると思われませんが、集計結果をご確認いただくことで臨床業務を安全に行うための一助となれば幸いです。

1. 回答者の基本情報（回答総数 2,147件）

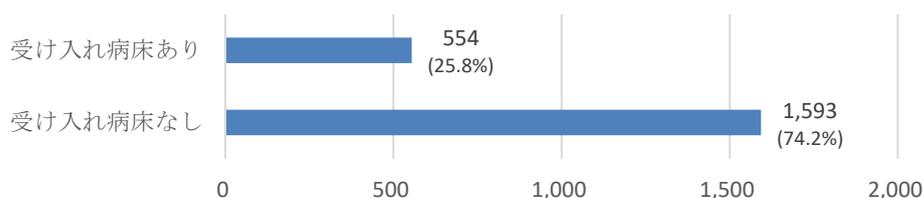
(1) 所属機関について

医療機関1,589（74.0%）、介護保険施設169件（7.9%）、介護保険事業所189件（8.8%）、福祉関連105件（4.9%）、公的施設（保健所・地域包括支援センターなど）25件（1.2%）であった。



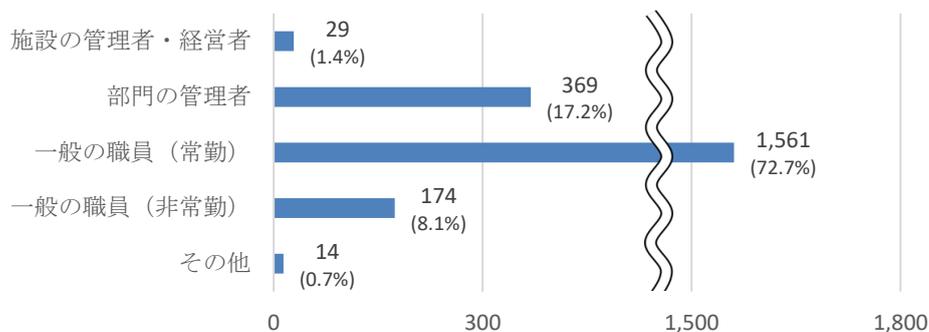
(2) 受け入れ病床の有無について

COVID-19感染者の受け入れ病床があるとの回答は554件（25.8%）であった。

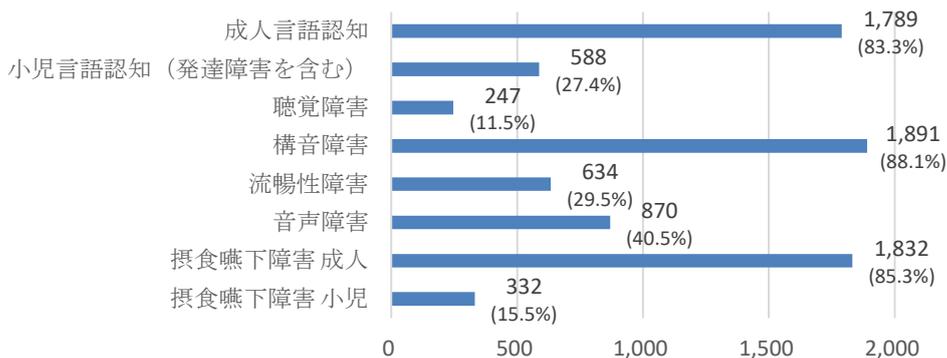


(3) 回答者の立場について

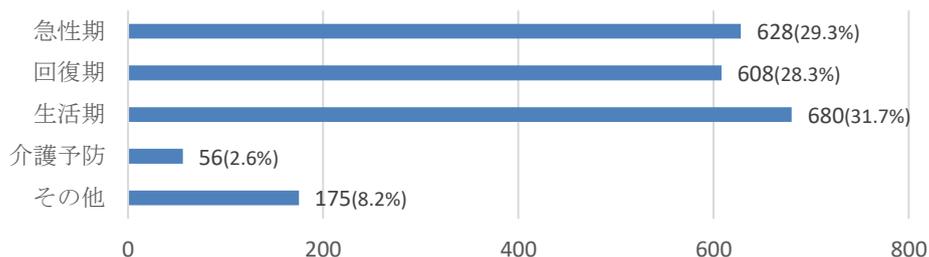
施設管理者・経営者29（1.4%）、部門管理者369（17.2%）、一般職員（常勤）1,561（72.7%）、一般職員（非常勤）174（8.1%）であった。



#### (4) 主たる対象障害について (複数回答可)



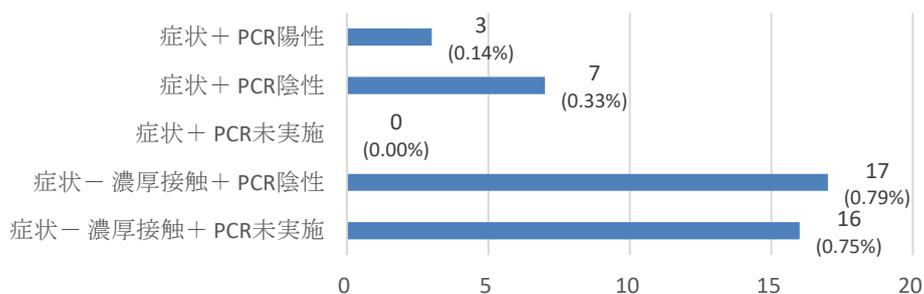
#### (5) 臨床における主たるステージについて



## 2. コロナウイルス感染症に関する個人的な状況について

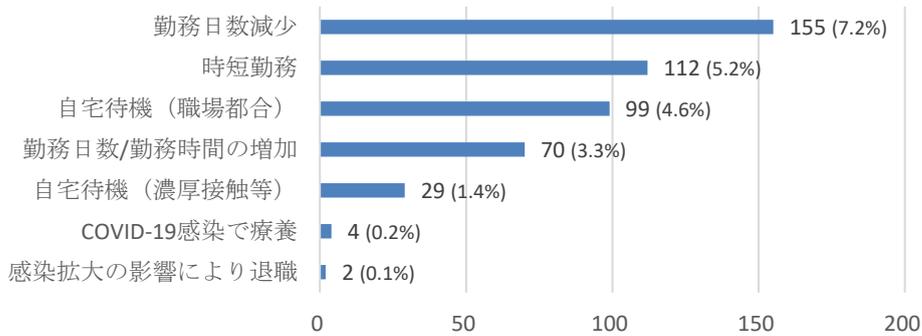
### (1) 個人の感染状況

症状はなく濃厚接触もない者が“感染していない”という項目を選択したと考えられるが、その回答者数は2,104名 (98.0%) であった。他の43名 (2.0%) は、感染症状のあった者10名 (0.47%) で内訳はPCR検査陽性3名、陰性7名、未実施0名と、濃厚接触はあったが症状のなかった者33名 (1.54%) で内訳はPCR検査陽性0名、陰性17名、未実施16名であった。



### (2) 勤務への影響 (複数回答可)

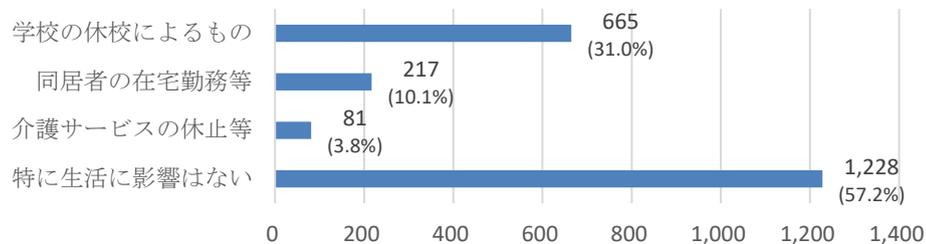
感染拡大前と変わらないという回答が1,508件 (70.2%) であったが、勤務に影響があったという回答471件 (22%) の内訳は以下であった。



表の項目とは別の自由記載には、患者数・利用者数の減少や勤務体制の変化に関連する時差出勤、時短勤務、在宅勤務、外来訓練等の中止、カンファレンス中止、オンライン訓練開始などが多数みられた。一方、感染症対策に時間を取られる、休まざるを得ない者の代行業務があるなど、勤務時間の増加に関わるものもみられた。

### (3) 生活面での影響 (複数回答可)

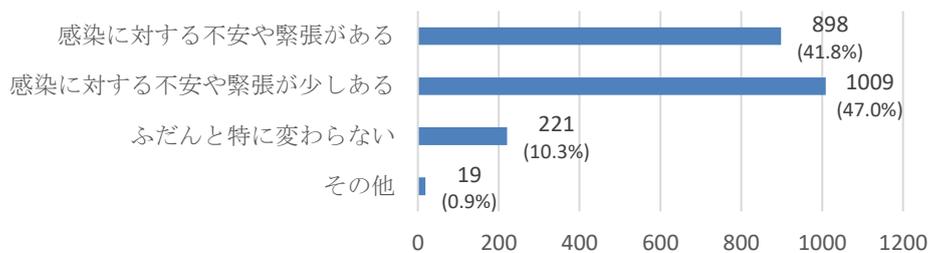
影響はないとの回答が1,228件と最も多かったが、影響がある項目では学校の休校が665件(31.0%)、同居者の在宅勤務が217件(10.1%)、介護サービスの休止等が81件(3.8%)であった。また自由記載では外出自粛による影響、育児(保育園等)への影響が多数みられた。



### (4) 精神面での影響

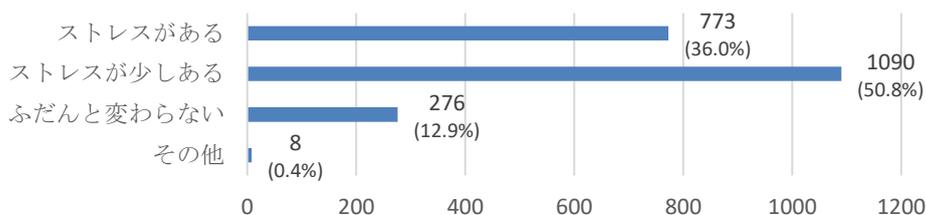
#### 1) 業務に関するストレス

不安や緊張がある898(41.8%)、少しある1009(47.0%)との回答に対し、普段と変わらないとの回答は221(10.3%)に留まっていた。



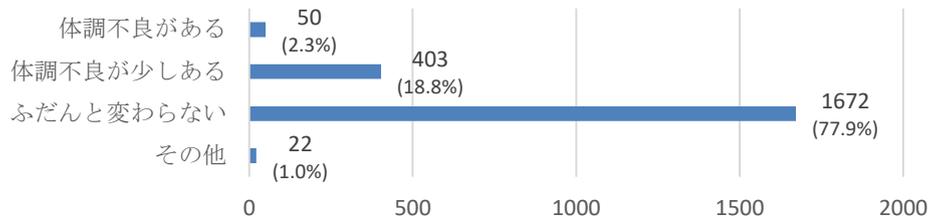
#### 2) 活動自粛に関する生活上のストレス

ストレスがある773(36.0%)、少しある1090(50.8%)との回答に対し、普段と変わらないとの回答は276(12.9%)に留まっていた。



### (5) 身体面での影響

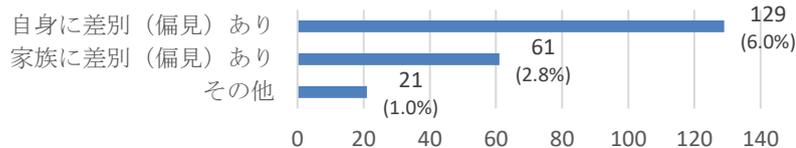
ふだんと変わらない1672(77.9%)との回答に対し、体調不良がある50(2.3%)、少しある403(18.8%)という結果であった。



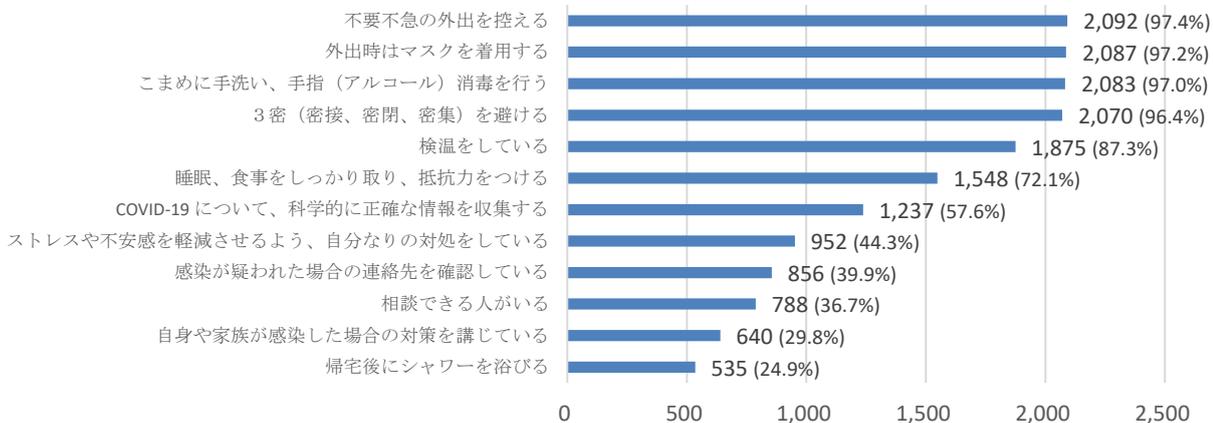
※身体面と生活面での影響は比較的少なかったが、精神面での影響は大きいという結果であった。

#### (6) 医療従事者であることによる差別や偏見

差別(偏見)はないとの回答は1936(90.2%)であったが、自身への差別(偏見)あり129(6.0%)、家族への差別(偏見)あり61(2.8%)という結果であった。



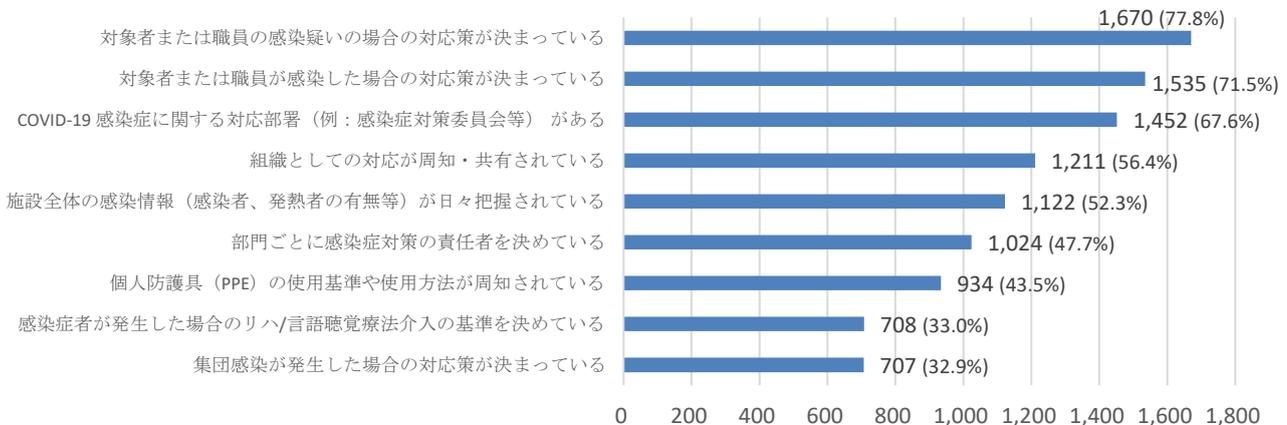
### 3. 個人の生活において本人の判断で気をつけていること(複数回答)



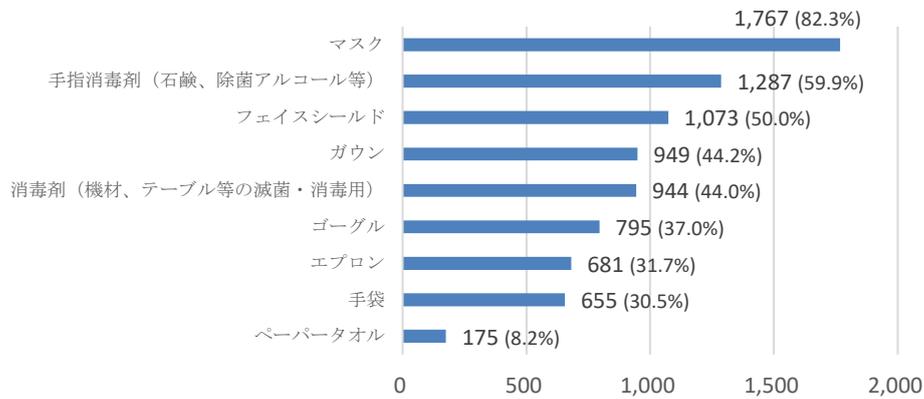
### 4. 所属する施設での対応状況(複数回答)

※様々な方法が考えられるため、選択肢の中には矛盾するものもある。

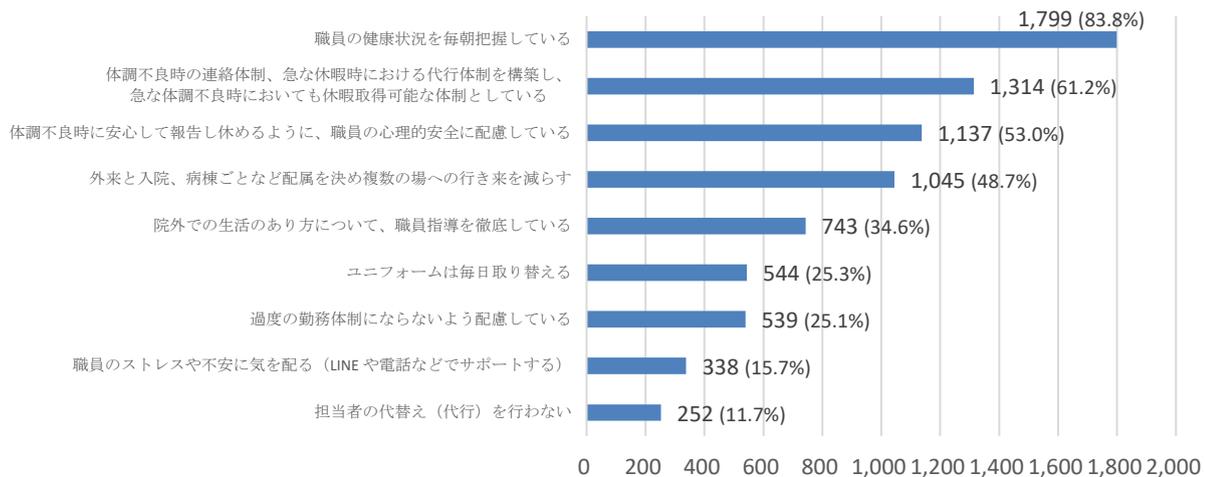
#### (1) 組織体制



#### (2) 個人防護具(PPE)や消耗品などの充足状況

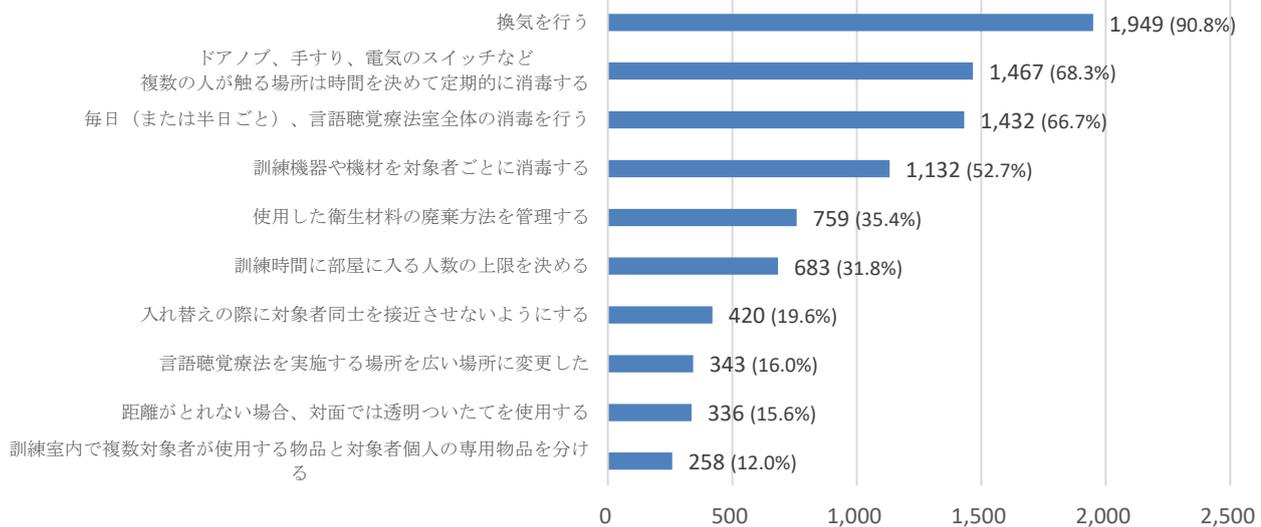


### (3) 部門の管理状況

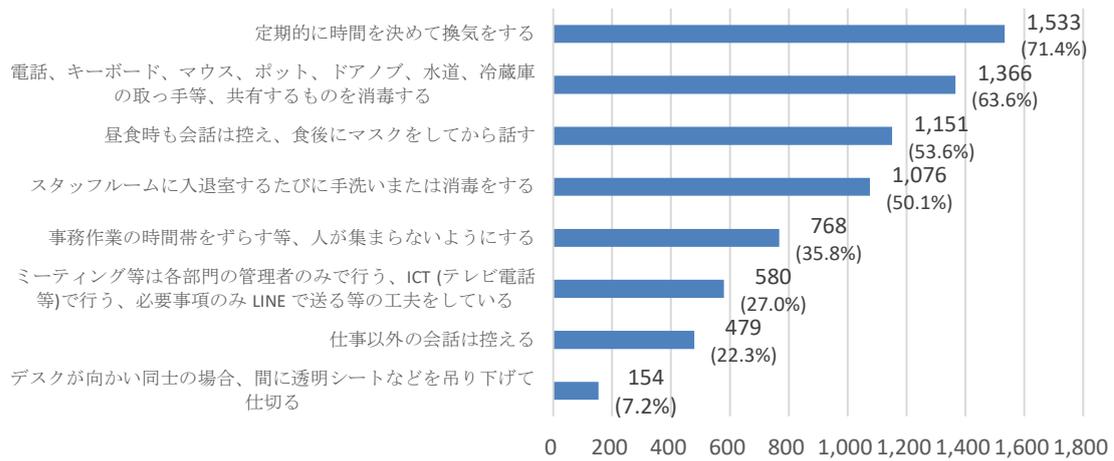


### (4) 環境の管理

#### a. 言語聴覚療法室

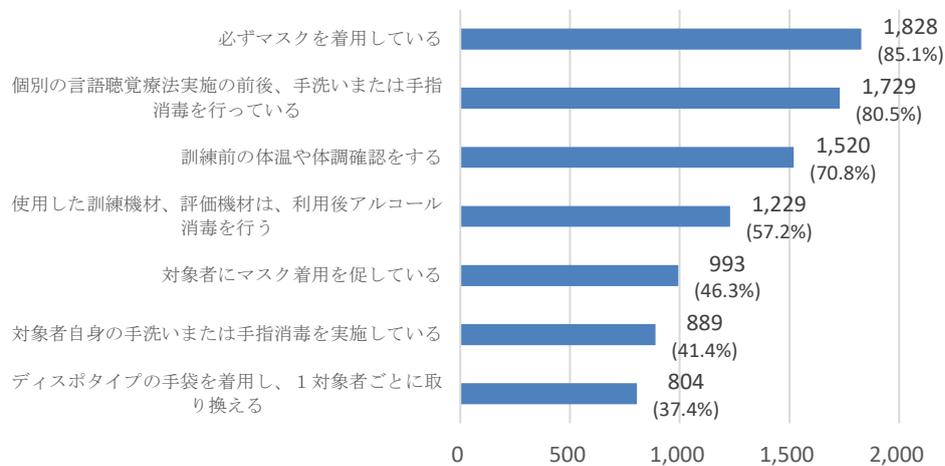


#### b. スタッフルームの環境管理

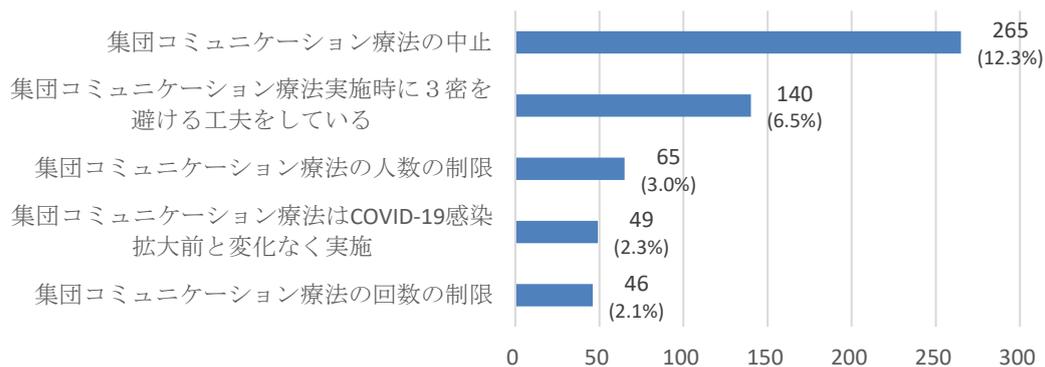


## (5) 患者・対象者へ接する際の対応

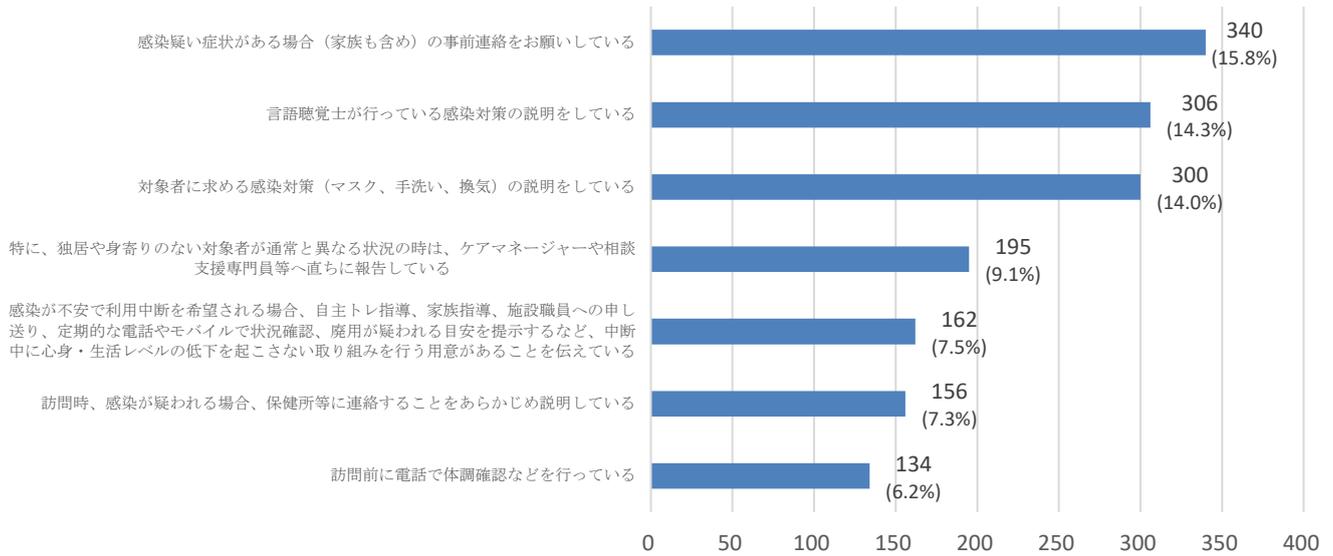
### a. 個別の言語聴覚療法場面



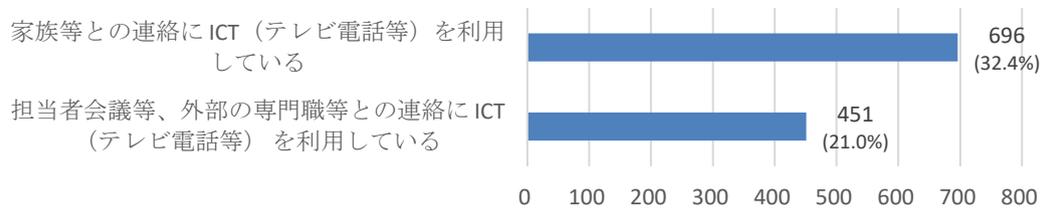
### b. 集団の言語聴覚療法場面



### c. 訪問の言語聴覚療法場面



#### d. その他の場面

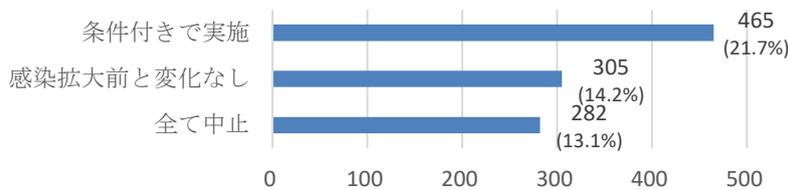


### 5. 言語聴覚療法の実践について（複数回答）

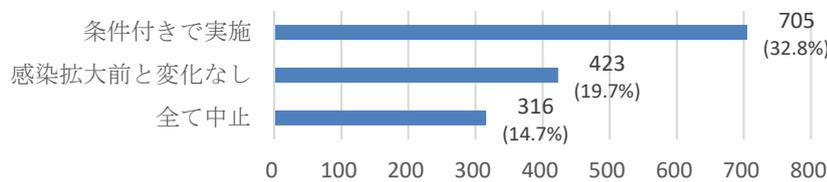
#### (1) 言語聴覚療法関連

##### 1) 外来患者への対応

###### a. 摂食嚥下障害

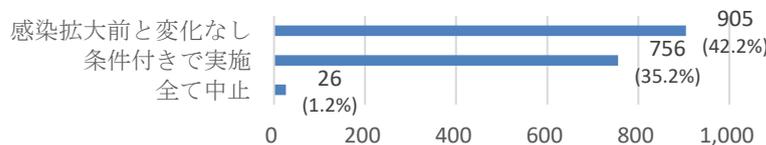


###### b. 言語聴覚療法全般

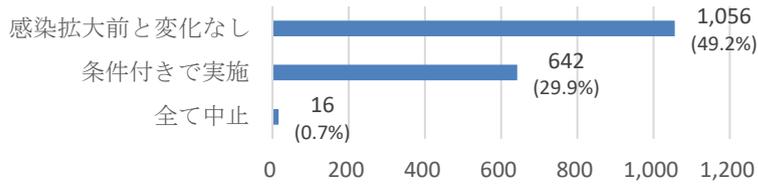


##### 2) 入院患者への対応

###### a. 摂食嚥下障害

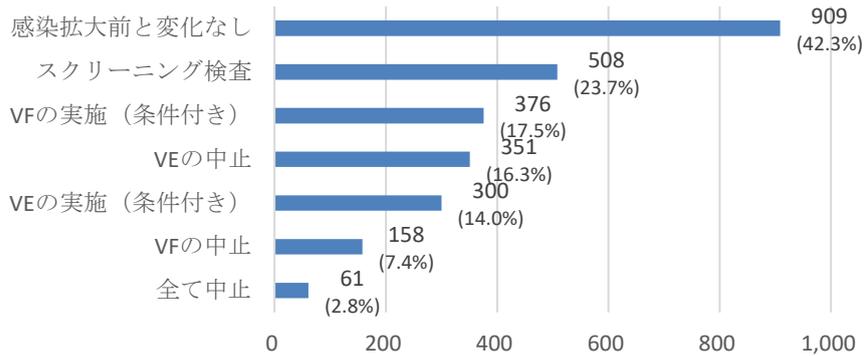


## b. 言語聴覚療法全般

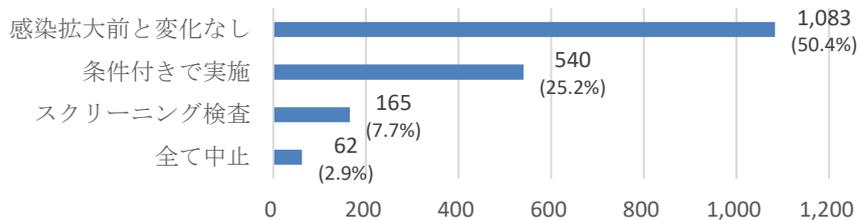


## (2) 検査関連

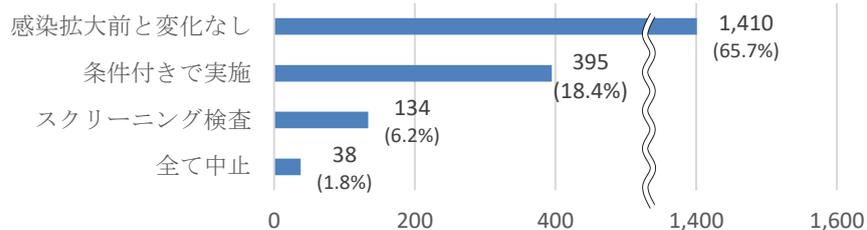
### 1) 嚥下機能評価



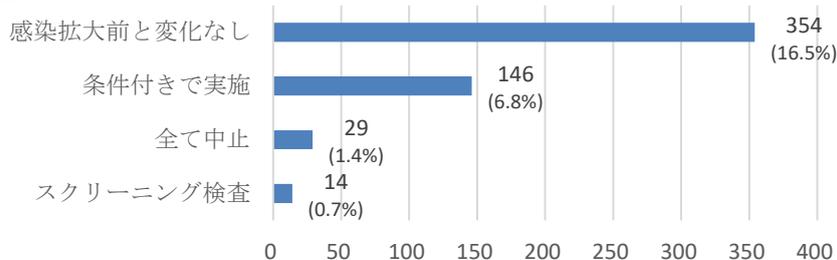
### 2) 音声言語機能評価



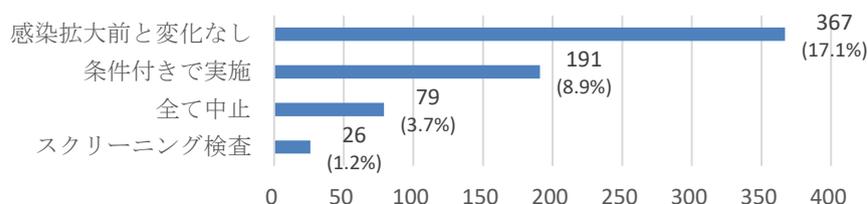
### 3) 認知機能検査



### 4) 聴力検査

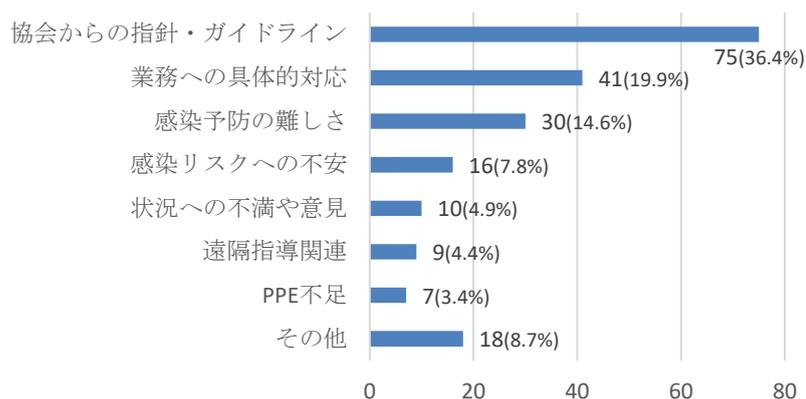


### 5) 発達検査



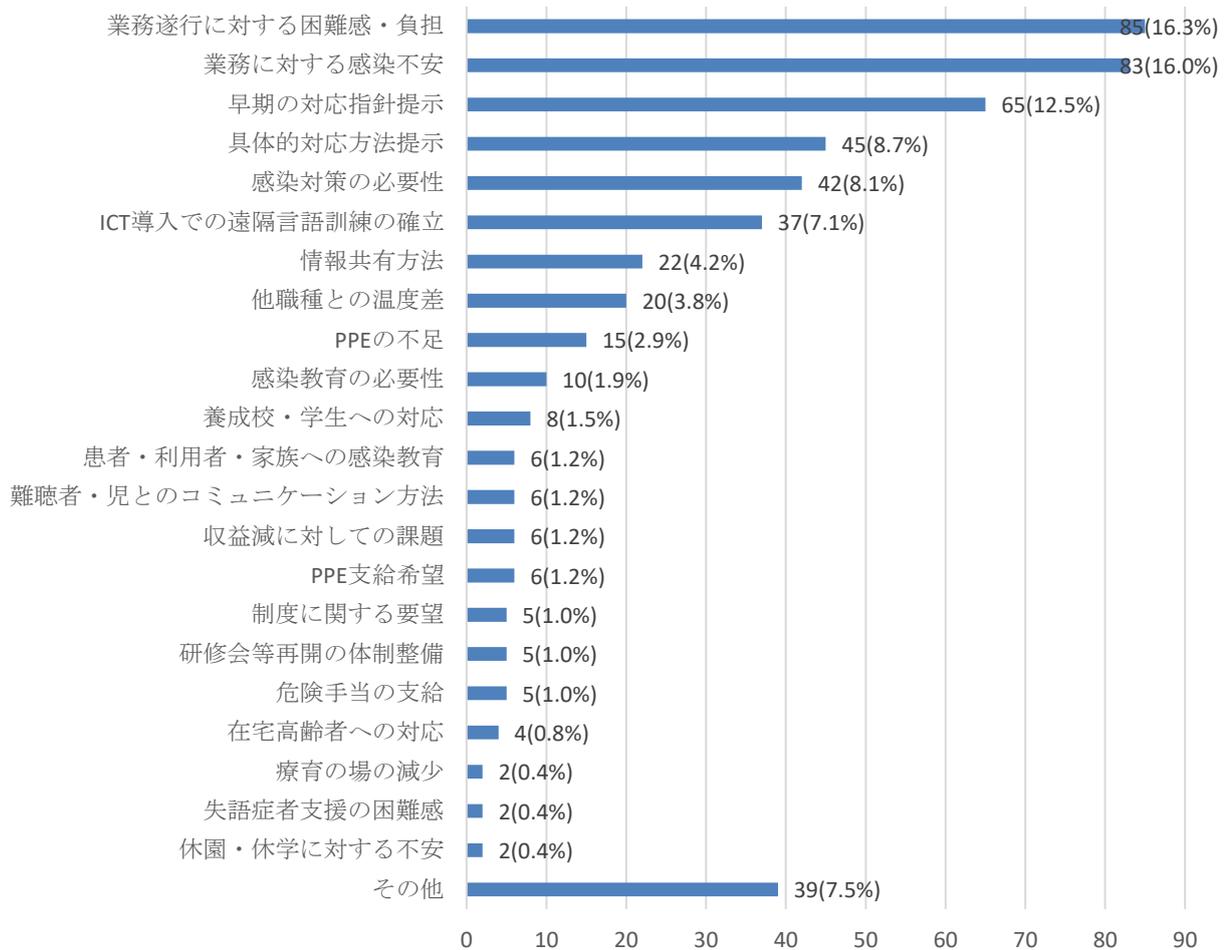
### (3) 意見の自由記載

記載は206件で、業務遂行に関する協会からの指針・ガイドラインの要望が75件（36.4%）、業務への具体的対応41件（19.9%）、感染予防の難しさ30件（14.6%）、感染リスクへの不安16件（7.8%）などが多かった。



### 6. 言語聴覚士としての課題と要望

記載は520件であった。業務遂行に対する困難感・負担が85件（16.3%）、業務に対する感染不安が83件（16.0%）と多く、協会に対し早期の対応指針を求める意見も65件（65%）と多かった。なお、記載内容を下記にまとめた。



#### 【言語聴覚士の保護に関する内容】

- 言語聴覚士（会員外も含み）の生命を保護する観点から、国難時、有事、自然災害時に、協会が責任を持ち、言語聴覚訓練、摂食嚥下リハビリテーション中止、再開に関する指針及び、感染対応方法の迅速な提示が必要。
- 嚥下訓練時の感染予防に関する具体的方法論の提示。
- 通所や訪問でリハビリテーションを行う言語聴覚士の業務を守るための協会指針が必要。
- 女性言語聴覚士を守る取り組み。
- 対応方法に関する根拠の提示も必要。科学的根拠が必要。
- 協会が率先して、養成校への臨床実習に対する指針の提示が必要。

#### 【他職種への言語聴覚士としての指針の提示】

- 口腔を扱う言語聴覚士として、他団体への物品使用に関する必要性の訴えは行わなければならない。協会の指針として物品使用を推奨する指針を打ち出さなければならない。
- 協会主導で理学療法および作業療法と感染リスクが異なることを主張するべき。
- 感染リスクであれば歯科医師・歯科衛生士会と連携を組むべき。
- 感染管理の持続的啓発。

#### 【協会としての患者・利用者への対応指針の提示】

- 患者や利用者への感染情報の提供の行い方、内容に関する具体的指針が必要。

#### 【学会・研修会等の開始】

- 研修会再開の指針や体制の整備が必要。
- リモートやeラーニングの準備など。
- 感染管理に関する勉強会の開催。

#### 【情報共有】

- 情報共有方法の迅速化、簡便さ。
- 現場での対応方法を共有したい。
- 受動的情報共有方法の確立。
- 他施設の対応方法の共有（ここは施設間情報共有なので言語聴覚士単独の判断では困難）。
- 現場での対応方法の共有。
- フィールド別の具体的対応方法の共有。

#### 【制度に関するもの】

- 国難時、有事、自然災害時の超法規的対応の適応の構築。
- 診療報酬にかかわる情報の共有。
- 遠隔リハの診療報酬化。
- 看護師と同様に危険手当を支給してほしい。
- 緊急事態時の VF・VE 検査の実施について。

#### 【業務に関する訴え】

- 一人職場の場合の感染対応方法の確認など議論が十分に行えない。
- 感染管理下での発達障害者・児へのリハビリテーションの実施方法を知りたい。
- 感染環境下での言語訓練、嚥下訓練の実践方法を教えてほしい。
- 感染管理下での聴覚障害者・児へのリハビリテーションの実施方法を知りたい。
- 感染管理下における聴覚障害者・児とのコミュニケーション方法。
- 発達療育を行う上での困難感。
- 感染に対する不安。
- 業務遂行の困難感（病院内での対応、リハビリテーション科・部、言語聴覚科内での対応）。
- PPE 装着中の言語訓練、嚥下訓練の困難感。
- 安全に言語訓練及び嚥下訓練を行うことの困難感。
- 法制度上、業務規程上における業務遂行の困難感
- 言語聴覚士単独の訴えでは対応してもらえない。
- 外来患者の実施と中止に関する基準が欲しい。
- 外来患者中止の場合の対応方法を提示してほしい。
- 理学療法士、作業療法士との感染リスクの差がる。理学療法士、作業療法士と同一の対応は困難である。
- 勤務先での感染対応の脆弱さがある。
- 業務中止や再開、ICT を活用した業務の支援、バックアップが欲しい。
- 直属の管理者へ対する対応の不満。
- 言語聴覚療法の規模縮小時の具体的対応方法がわからない。
- これから先、言語聴覚療法を行う上で感染管理に対応した実施方法の確立が望まれる。
- 感染対策をしながらの言語聴覚療法の実施方法。

#### 【手当・収入・雇用に関する訴え】

- 個人経営だと収益が減少してしまう。
- 収益が減少すると給与が減ってしまう。
- 正規雇用契約が解消されるかもしれない。

#### 【養成校・臨床実習に関する訴え】

- 臨床実習の受け入れを希望する。
- 次期新人言語聴覚士の質が心配される。
- 医療的危機により養成校の入学数が減ってしまうのではないか。

#### 【その他】

- 協会への感謝
- 理学療法士協会に比べ何故言語聴覚士協会は対応が具体的ではなかったのか？
- 口元が見えるマスクの開発。
- 失語症友の会支援の困難感。